

# こんにちは三原じゅん子です

NO.2 2006年11月28日

生活相談  
すずらん台西4-202  
三原 じゅん子  
電話 0595-68-3552

## 9月議会報告

三原じゅん子は通学定期、中学校給食  
小児救急医療、乳幼児医療費諸問題を質問しました

こんには、三原じゅん子です。皆様のご支援を頂き、押し上げて頂きました。9月より議員として活動しています。新人研修から始まり、初めての事が続く毎日ですが、少しでも早く慣れ、そして勉強し身につけ、市民の暮らしを守るために頑張ります。これからもよろしくお願いします。



## 三原のQ 通学バス定期保護者負担をどう思いますか 義務教育は無償という事をどう考えていますか

- すずらん台では、団地開発時に中学校用地などを住民が負担しているにもかかわらず中学校は建てられず、北中学校への通学に保護者は3年間で約13万円の負担を強いられています。兄弟で通学する家庭は大変な出費です。
- 津市では公共交通機関を利用する小中学校の通学費は全額補助です。伊賀市はスクールバスが運行しています。
- 最近子どもが標的になる事件が相次ぎ、国もスクールバスの検討を始めています。



こんな高額な負担をしないと義務教育を受けられないとはおかしなことです。

就学援助金を受けている人で、中学校から6キロ以上離れている人のみ通学費が支給されます。

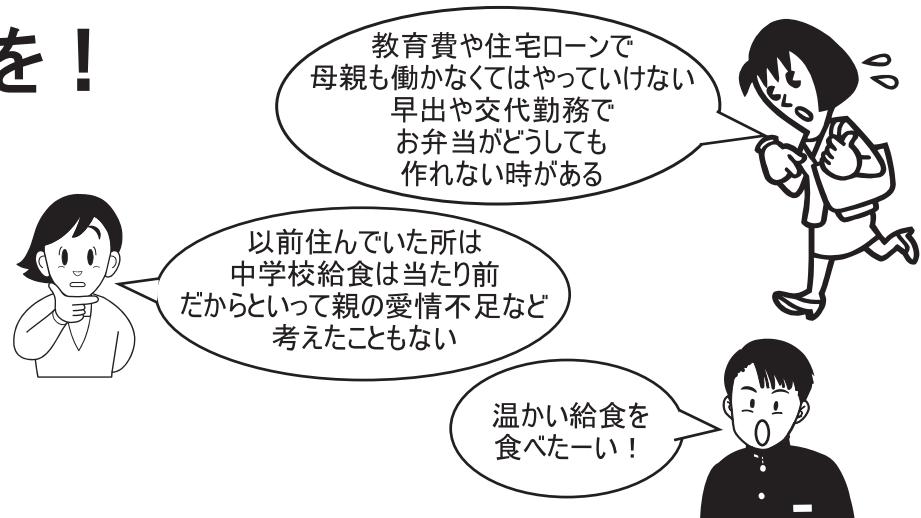
すずらん台の場合、全地域のバス代は同一ですが住む所によって6キロ以上と以下になっており、通学費は支給される所とされない所があります。



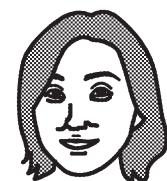
名張市のA 生活困難な家庭には就学援助制度があります

## 三原のQ 中学校給食の実施を！

- 市長の公約です。
- 全国の8割の自治体で実施されています。
- 食育の観点から教育の一環です。
- 輸入材料や添加物の多いコンビニの弁当を買う生徒も多い。
- 昼食を食べない生徒もいる。
- おいしく、温かい給食は空腹を満たすだけでなく、心の栄養です。



親の愛情で全て解決できるというのでしょうか。  
行政は弁当業者の安定した運営を求めるよりも愛情をもって安心安全な給食の提供を求めてください。



名張市のA 中学生には愛情弁当を作つてほしい  
用意できない家庭には注文弁当を用意している  
注文弁当の安定した運営を目指している  
自校給食やセンター給食にするにはスペースがない  
中学校給食は教育の一環だが長期的課題

# 三原の市立病院で 小児科の時間外救急を!

- 急な発熱、ぜんそくの発作やけが等子どもの病気は待たない。子どもの命と健康を守るために、小児科時間外救急を早期に実現して欲しい！



医師不足の折、他の病院の医師を引き上げて名張に来てもらうという実態。  
本年度中には時間内救急が整い、2008年までには6人体制にし、医療センターと小児救急が整う予定です。

## 三原の 4～5才児の 通院費の無料化を！

- 3才までの医療費は無料だが4～5才児は入院費のみ無料になっている。しかしもっと多いのは通院だし、入院の前後も通院がある。
- 雇用形態が変化し、非正規就労が増えている。そのため収入が不安定になってきている。費用を心配して幼児の治療をためらう事態があつてはならない。
- 松阪市は5才未満の医療費は無料。亀山市は就学前まで無料。全国では中学生まで無料の自治体もある。
- 昨年の名張市の決算は4億円余の黒字。4～5才児の通院医療費概算は約4000万円。出せない額ではない。



名張市単独では財政難でできない。医療助成により、行政の負担割合が変わる平成20年に、県の動向を見ながら実施していく方向です。

## 三原の 小規模修繕工事登録制度 名張市も採用を

- 名張市では非常に安価な修繕や建築工事でも、入札や随意契約で発注されています。小規模修繕工事登録制度は公共事業の入札に参加できない小規模の業者に登録してもらい、自治体の裁量で発注していくものです。
- 実際の入札は大手企業が落札し、市外、県外の下請けへ地元の税金が流れていっている状況です。地元小規模業者にも仕事をまわすため、ぜひこの制度を名張でも取り入れてください。
- 三重県では松阪市、鈴鹿市、伊勢市で実施。全国では328自治体が実施しています。



実施している事例を調査し、今後入札の方法を整備し検討する。

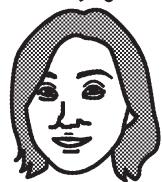
### ・ケースA・

引越し後まもないぜんそくの小5児童、夜中に39℃の発熱で救急医療センターに電話すると「津か亀山に行ってください」。父は自身赴任中で母は夜中に運転できる土地勘もない。

### ・ケースB・

市民病院の近所の小1児童、祝日におたふく風邪になるが、保健センターも医師不在、市内中の小児科に電話しても留守電。救急医療センターに電話すると「津に行ってください」。

時間内ならば市内の小児科が開いています。  
時間外・夜中に診てもらえる病院が今、早急に必要なのです。  
多くの親が強く望んでいます。

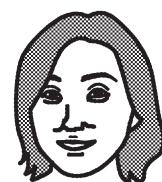


市は財政難を理由にできないと言いますが、一般家庭も財政難です。景気は回復したようでも一般家庭の収入は増えていません。

それどころか定率減税の廃止や扶養控除廃止で増税になり、家計を圧迫。親は身を粉にして働いて子育てをしているのです。

今子どもを産み育てなければ将来を支える者がいなくなってしまいます。その場しのぎでない、子どもに重点をおいた施策が必要なのです。  
平成20年からと言わず、もっと早く実施してください。また、少子化になったからと言って乳幼児医療費枠を減らすのではなく、必要とされている就学前医療費無料化実現にまわしてください。

選挙中、乳幼児医療費無料化を公約にした議員が他にもいます。それだけ市民の要望が大きいということです。



## 三原の 全ての小学校に食品成分や カロリーのわかる給食献立表を

- 献立は市で一括で決めるのに、児童に配られる献立表は各小学校で作るので栄養士のいる学校といない小規模校では内容が違う。家庭での食育のためにも、献立の情報を各校で使えるようにして下さい



実施します



11月16日に、日本共産党の地方議員で2007年度三重県の予算編成に対する提案・要望のため、対県交渉をしました。乳幼児医療費や子どもの教育、雇用、介護保険など、暮らしに関わる事を要望しました。